

# 市長コラム

## ～未来への架け橋～

Vol.15



記録的な豪雪に見舞われた冬が終わり、ようやく春の陽気となりました。人生の新たな門出を迎える皆さんには、希望と目標に向かって、ご活躍されますようご期待申し上げます。

また、長引くコロナ禍の中、市民の皆さんには、さまざまなご不便やご苦労があるかと思いますが、4月は人の動きが多くなる時期ですので、より一層、感染対策への意識を高め、ご自身の行動に細心の注意を払っていただくようお願いいたします。

### ★家庭内感染防止に十分気を付けるようお願いいたします

県内では、3月に入ってから連日多くの新規感染者が発生し、高止まりの状態が続いています。

今般の爆発的感染は、飲食店での飲食に起因する事例が少ない反面、学校や福祉施設、家庭内での感染拡大が多く、特に子どもの感染が多いことを憂慮しています。市では、5歳から11歳までの子どもへのワクチン接種を3月1日から開始しています。子どもについては、副反応のリスクを心配される保護者の方もおられるかと思いますが、接種については、義務ではありませんので、正しい知識を持ってご判断をいただければと思います。

また、飲食業、卸小売業をはじめ多くの事業者の皆さんには、およそ2年にもわたって厳しい状況に立ち向かい、さまざまな工夫や懸命な努力をしておられることに改めて敬意を表します。

引き続き感染対策の徹底と同時に「ウィズコロナ」への対応が極めて重要になります。再び五所川原に元気を取り戻すため、市民の皆さんには感染予防対策に配慮しながら、飲食や買い物等により経済活動を応援して下さるようお願いいたします。

### ★いじめ問題への取り組みを強化します

ユニセフ（国連児童基金）が令和3年9月に発表した「先進国の子ども幸福ランキング」によると、日本の子どもの精神的な幸福度は下から2番目の第37位という結果となっています。

その報告では、いじめが原因により子どもの精神的幸福度が明らかに低くなっているとの指摘があります。

子どもの人権を守るためにも、いじめの早期発見、悪化防止のため、幅広いチャンネルで対策を講じることが重要であり、そのためには学校のみならず行政がしっかりと関わる必要があります。

そこで、いじめで苦しむ子どもや不安を抱える保護者の皆さんが、学校以外でも相談できるよう受け皿として、「子どもいじめ相談室」を令和4年度より市教育委員会に開設します。電話や面接での相談はもちろん、学校で活用している1人1台に配布のタブレット端末、スマートフォン等から直接相談することができ、また、早期解決に向けた対策を講じるため、専門スタッフを配置することで、いじめや虐待などの悩みや不安にしっかり寄り添い、不安や問題の解消に徹底的に対応していきたいと思っています。

### ★子どもたちに伝えたい「言葉」の大切さ

日本には「言霊」という言葉があります。言葉には魂が宿り、発した言葉は人を幸せにすることも不幸にすることもでき、まさに言葉は「諸刃の剣」とも言えます。

言葉には、それほどの力があり、良い言葉は自分の人生を豊かにし、人を傷つける言葉は自分を不幸にし、結果的には自分に返ってきます。

私たちは、言葉の力を知り、言葉が相手に与える影響を常に意識し、自分の言葉には責任を持つことを社会の規範として決して忘れてはなりません。

インターネットが当たり前のように私たちの生活に入り込んでいる現代において、大人の目の届く範囲には限界があり、ネットという見えない世界の中で起きている出来事をすべて把握することは難しいのが現実です。軽い気持ちで発したり、書き込みをした言葉は、時には「暴力」となって人の心を大きく傷つけます。子どもたちに言葉の大切さを理解してもらえることを願うとともに、私たち大人も社会で生きていく上で肝に銘じていきたいと思っています。



『五所川原料飲店組合からの要望』の様子



『五所川原市総合教育会議』の様子